

第50回 川崎市幼児教育研修大会

第5回 10年教諭研究会

月 日 平成22年1月20日(水)

場 所 川崎市国際交流センター

講 師 小林 紀子先生

(青山学院大学教育人間科学部教授)

テーマ：10年教諭に求められるもの

俯瞰図番号 A1-III・B1-III・B2-III
D2-III

◎グループ討議のテーマ

○1～4グループ(研修大会のみの参加者)

①幼児教育者が自ら求めるもの

②小学校教育側から求められるもの

③10年教諭として園全体の協力体制をどのようにしたらよいか

○A～Cグループ(継続研究参加者)

・1年間の研究内容を討議し、まとめて図示化しましょう。

≪グループ討議≫

●グループ討議のまとめと発表

○1グループ

①・子ども、保護者、他の保育者に対して、今までの経験や知識を踏まえて柔軟な考え方や対応が大切である。

・保育内容がマンネリ化しないよう、保育力のレベルアップを目指す。

②・小学校と連携して情報を共有し、子どもの学習への移行を援助する。

・幼児期に必要な経験や体験などを多くして、生活習慣や人の話を聞く力を育て、学ぶことに興味に向くようにする。

③・後輩と先輩の話をよく聞き、教職員間のパイプ役になる。個々のことと園全体のことを考えることが大切である。

○2グループ

①③・園児、保育者、保護者から頼られる存在として、自分自身を向上させる。保育がマンネリ化しないようにつとめる。

・教職員間のパイプ役となり、いろいろな意見を受け入れる柔軟性をもつ。

②・生活習慣の自立、自分の気持ちをしっかり伝えること、相手の話を聞くこと、好奇心をもつことなどが求められている。カリキュラムを見直すことが大切である。

○3グループ

①・新しいことを取り入れる勇気とその危険性を感じることの両方を持ち、線引きをする立場になることが求められている。

・子どもの見本として、常識をもって人と接することが大切である。社会に目を向け、自分自身を高めていきたい。

②・生活習慣の自立など、幼児期にできること、すべきことを子どもと保護者に伝える機会をもつ。

③・園全体の動きを把握し、自分が軸となって進めたり、教職員に伝えたりする。

○4グループ

①・向上心や自信をもって行動すること、保護者と教職員同士の信頼関係を築くことが求められている。

②・挨拶、生活習慣、感謝する心、思いを相手に伝える力、聞く力、集中力を育てることが求められている。コミュニケーション能力が低下しているので協調性が育つような経験をする。

③・後輩を育成する。

・教職員同士の調和を図り、パイプ役となる。

○Aグループ

・学年や園全体をまとめる。

・園長と教職員の間をつなぐパイプ役となる。

・学年主任と連携をとりながら、中堅、新人に必要な援助やアドバイスをしていく。

・後輩が話しやすい環境をつくる。思いを読み取る力、引き出す力も求められている。「報・連・相」の大切さを伝える。

・保護者の対応では、後輩のサポート役になるような体制作りをする。

○Bグループ

- ・園長、先輩と後輩をつなぐパイプ役、リーダーシップの発揮、相談役、保育技術の伝達、後輩の育成などが求められている。
- ・仕事の段取りをよくし、現場をまとめる力が必要である。
- ・後輩が相談しやすい雰囲気づくりや環境づくりが大切である。
- ・信頼感、期待感も大きいがプレッシャーを感じずに自信をもって仕事をしていきたい。
- ・初心を忘れず、資質の向上を図りたい。

○Cグループ

- ・園全体が回るようにする。
- ・園長と後輩の間の橋渡しをする。
- ・後輩の育成、援助をする。
- ・子どもの育ちにあう保育をするために、日々の保育の反省、次に生かす見通しを立てることが大切である。
- ・小学校との連携では、子どもや親の情報を伝える。小学校につながるよう、生活習慣の自立や思いを伝えること。授業始まりの態勢作り、集中力などを育てる。
- ・保護者と信頼関係を築き、気になる子どものようすをその親に伝える役目もある。

◎講義

○グループ討議に対する助言

- ① 人と柔軟に関わり、人を意識することが大切である。
 - ・新たな流れのなかで、新しいことを取り入れながら、流されずに大事なことを貫く。(倉橋惣三「保育の新と真」)体験重視を保育で実践する。
- ② 小学校は幼稚園に子どもの自立を求めているので、自立と人とのつながりをカリキュラムに組み入れて、体験を広く積み重ねるようにする。
 - ・小学校と実際の交流をもっとしてほしい。
- ③ 職員間の協力、全体をまとめる、後輩のサポート、専門性、プレッシャーなど難しい問題が多い。しかし、幼児教育は面白い仕

事、自分と人様からの両方の評価の物差しを持つことは楽しいことである。

- *子ども、保護者、保育者、地域、小学校とのつながりをもちながら幼稚園全体をどう動かすかを、流れのなかで自覚化していく。
- *個と集団（保育の両義性のバランス）を考えることが、保育の専門性につながる。

○講義

◇幼稚園教育要領の改訂のポイント

- ・幼保小の円滑な連携・接続（一緒に考える）
- ・生活リズム・食育
- ・言葉と体験重視（規範意識・言葉と体験）
- ・園と家庭の連携（子育て支援）

◇なぜ“生きる力”なのか。

世界がグローバル化し、国境を越えて商品、人、情報、知識が共通になったが、変化する先が見えないので、自立、つながり、思慮深さが求められている。これが生きる力である。

◇幼児教育がなぜ今注目されているか。

就学前の教育への投資は一番効率がよく、所得が上がる。(ヘックマン(米)長期追跡調査)

◇保育者の資質と保育の質の向上・評価

- ・方向性の質、構造の質、成長の質、保育過程の質を高める。
- ・子どもも保育者も、経験や成長することによって失ったり衰えたりするものをどう価値づけるかが重要である。
- *子ども理解（発達過程）のために丁寧な記録をとる。
- *相手理解を深めるために、子ども、保護者、後輩、先輩の行為の意味を読み取り、考える。
- *指導性発揮のために、引き出しを豊かにし、人とのつながりを大切にする。
- *悩みをもち続けながら周りの人からのヒントで方策を考えていく。すべて解決しなくても、悩みながら葛藤（両義性のバランス）を維持する力、粘り強い力をもつ必要が求められている。